

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

後継者づくり・稼げる仕事をもたらす「道の駅」(その2)

1. 福岡県宗像市の道の駅「むなかた」の売りは鮮魚である。2008年4月に静かな漁港近くで開業した同駅は、今や福岡と北九州という大都市から消費者を引き寄せる人気スポットとなっている。2013年3月期は売上高16億3000万円を見込む。開業以来、売り上げは右肩上がり、九州トップクラスの規模を誇る。その成功は地元漁師らに恩恵をもたらしている。
2. 道の駅に出品する生産者600人のうち32人が、「むなかた」向けだけで年間1000万円以上を稼ぐようになった。5000万円以上という人もいる。「道の駅」がなければ存在していなかった収入だ。この地域では都会に働きに出ていた漁師の子供らが後を継ぐため戻るケースも増えたという。漁業が安定的に稼げる仕事になったからだ。以前は市場や企業に買い叩かれていた「弱者」である第1次産業従事者が道の駅で生計を得た。
3. 「むなかた」は今後、加工品製造のための工場を建てる。道の駅は地方に産業まで生み出しているのだ。道の駅「どまんなかたぬま」(栃木県佐野市)に野菜を作る石崎文雄は、「市場で売っていた頃は誰がどんなふうを買っていくのか分からなかった。道の駅で売ようになって、お客さんとの接点も生まれ、周辺の食品スーパーを意識して珍しい品目を手がけるようになった」と話す。生産者にマーケティング視点をもたらした。

(参考:「日経ビジネス」2013年4月22日号)

ワンポイント経営アドバイス

富山商人に学ぶ

1. 「相手を親戚のように慮る」。300年続く「富山菓売り」の原点富山商人は、このことを人間や商売の基本として大切にしてきた。他藩に入って上手に商売ができたのは、この気遣いがあったからこそ、人の心に入って行くことで道は開けるものだ。売る努力よりも、人が何を必要としているのか、話を聞くことに徹する。これは商売の基本だ。
2. 2008年の総務省の統計によると、富山県民の共働き家庭は全国で3位、女性の就業率は4位、平均勤続年数はトップだ。これも富山商人の伝統(「相手を親戚のように慮る」「コツコツ」「辛抱」)を受け継いだ結果にある。「真面目にきちんとしている」を意味する「堅い」という表現は、いまでも富山では最高の褒め言葉なのだ。

(参考:「致知」:2013年7月号)

経営者のための危機管理

「ワンポイントガイド」で危機脱出

1. 今や、動物園再生の象徴にもなった旭山動物園(北海道旭川市)だが、かつては廃園の危機に瀕していた。1967年に旭川市によって設立され、順調に入園者数が伸びたが、1983年の約60万人をピークに右肩下りとなり、1996年には26万人にまで落ち込む。年度末になると、1万円の予算すら獲得できず何とかしなければならなかった。そこで、取り組んだのは、意識改革だ。
2. 今でこそ、飼育係が客と接する動物園は多いが、当時は、飼育係は職人芸の世界だった。「自分は口べただから飼育係になったんだ」「説明するのは飼育係の仕事ではない」という不満が上がった。小菅正夫元園長は、飼育係と半年間話し合い、説得を続けた。その結果、1986年に「ワンポイントガイド」がスタートした。動物舎の前で自分の担当する動物の特徴を客に語りはじめた。中には、動物のふんを並べてクイズをする飼育係も登場した。その後、新企画を進めていき、少しずつ、旭山動物園はファンを増やしていった。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2013年4月20日号)

古典に学ぶ

大人物

(解説) 昔の真にすぐれた人物は、微妙深遠で、測り知れない器量をそなえていた。だから説明のしようもないのだが、強いて形容するなら、次のようになる。

1. まず、万事に慎重である。あたかも冬のさなか川を渡るがごとくである。
2. 次に消極的である。あたかも強国に囲まれて孤立した弱国のごとくである。
3. しかも、重厚がある。あたかも招かれた賓客のごとくである。
4. 物事に執着せぬこと、氷の溶けゆくさまにも似る。
5. 飾り気のないことは、手を加えぬ原木さながらである。
6. 無心なことは、広々とした器そのものである。
7. そして、捉え所のないことは、濁った水を見る感がある。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)